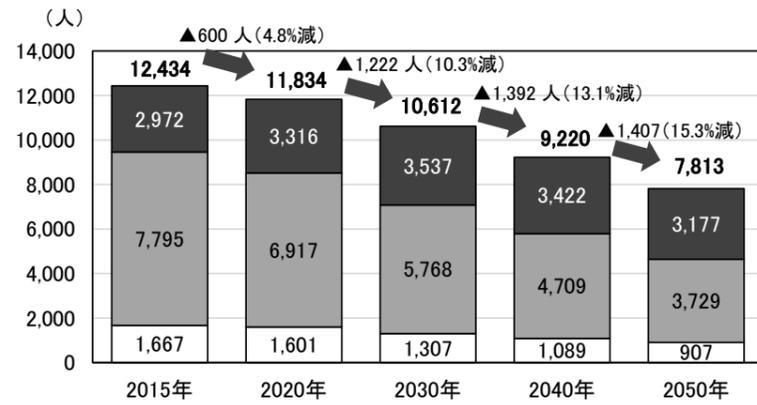


《人口の見通しについて》

【国立社会保障・人口問題研究所による将来推計】



□年少人口(0~14歳) □生産年齢人口(15~64歳) ■高齢者人口(65歳以上)

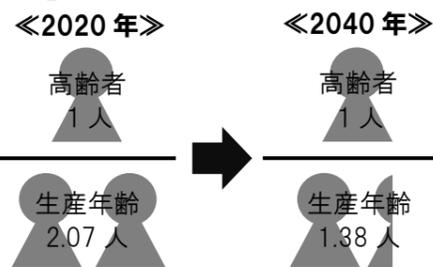
将来人口はどうか？

- 2040年には1万人を下回り、2050年に8,000人を下回る予想
- 人口減少幅は加速傾向
- 社員寮入寮者が減少すればさらに減少幅が大きくなる可能性もある

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

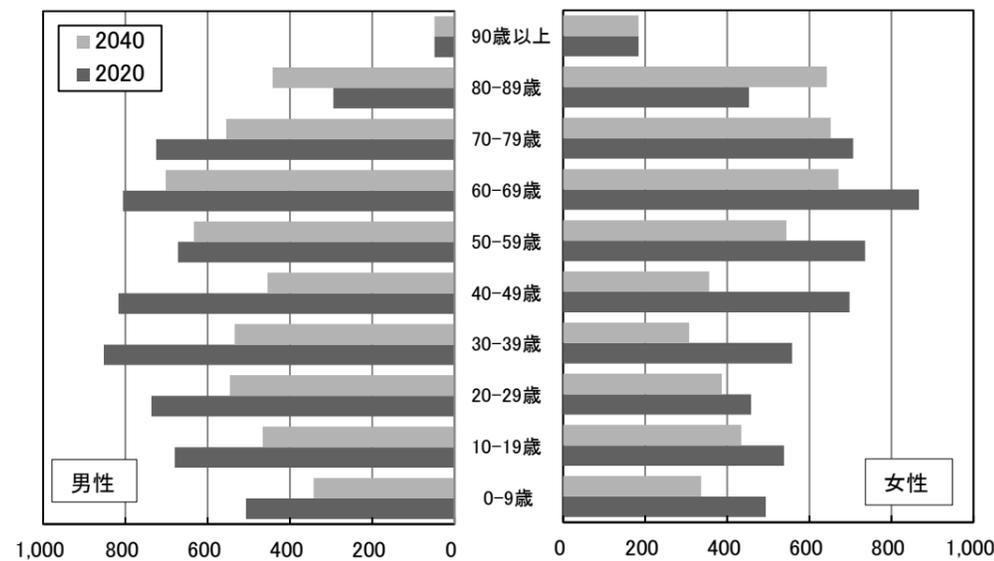
【人口構成のイメージ~2020年を人口100人とした場合~】

	2020年	2030年	2040年	2050年
子ども	14人	11人	9人	8人
生産年齢	58人	49人	40人	32人
高齢者	28人	30人	29人	27人
75歳以上	13人	18人	18人	17人
総人口	100人	90人	78人	67人



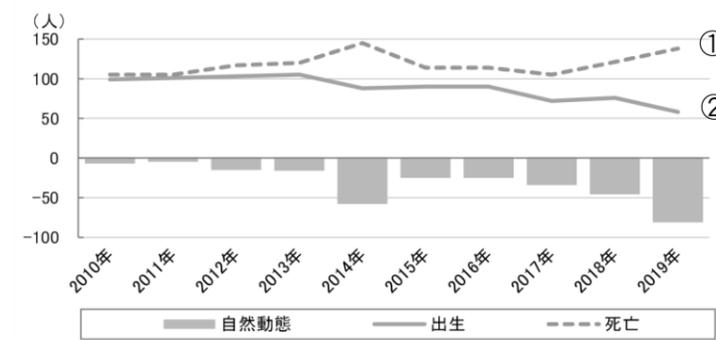
【人口ピラミッドの変化】

○支える世代の層が減少し、支えられる世代(特に80歳以上)が増加



資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」
2040年は10~40歳代で一定の社員寮入寮者分があることを加味して調整

【自然動態(出生・死亡)の推移】



資料: 総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

人口の動きは？

- 出生数に対して死亡数が上回る自然減が続いている。
- ここ数年で死亡数の増加、出生数の減少が加速し、マイナスが大きくなっている

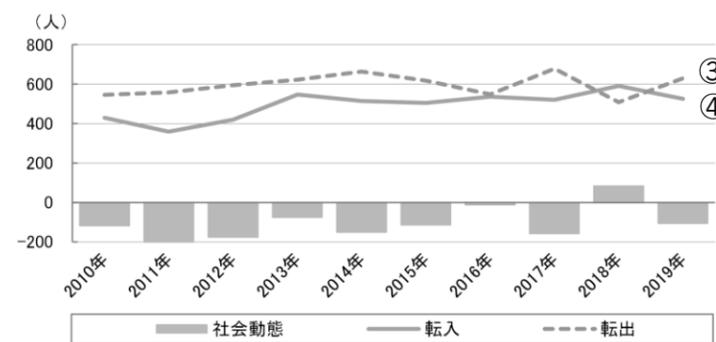
【30代未婚率の状況】

	男性	女性
竜王町	46.6%	21.3%
滋賀県	37.0%	24.1%
全国	40.6%	28.9%

【合計特殊出生率の状況】

	2008~2012年	2013~2018年
竜王町	1.51	1.48
滋賀県	1.54	1.58
全国	1.38	1.43

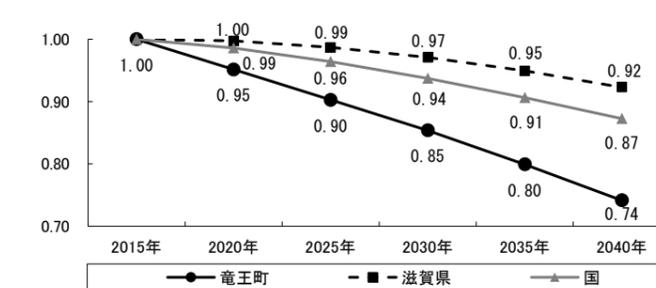
【社会動態(転入・転出)の推移】



資料: 総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

- 転入者数に対して転出者数が上回る社会減(2018年のみ社会増)が発生して減少数は自然動態よりも大きい

【2015年を1.00とした場合の指数】



資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

将来人口の考え方

- 人口減少のスピードは国、県平均よりも早いことが予測されている

【人口減少抑制のための施策の方向性】

自然動態改善方策

- ・寿命を延ばす(①)
健康寿命の延伸や高齢者のいきがいづくりなど
- ・出生数を増やす(②)
結婚・出産・子育て支援の充実など

社会動態改善方策

- ・転出者を留める(③)
- ・転入者を増やす(④)